

## 令和2年度(2020年度)横須賀市立小・中学校学習状況調査の結果について

令和2年8月19日(水)～9月18日(金)に、小学校3～6年生を対象に「横須賀市立小学校学習状況調査」を、同年8月19日(水)～8月31日(月)に、中学校1～3年生を対象に「横須賀市立中学校学習状況調査」をそれぞれ実施しました。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、全国学力・学習状況調査を実施することができませんでした。そのため小学校6年生の国語及び算数、中学校3年生の国語及び数学について調査ができず、「横須賀市立小・中学校学習状況調査」で実施した学年・教科のみの調査となっております。

横須賀市では本学習状況調査について、限られた教科および学年での実施であることや、それぞれの設問が学習指導要領で定められている学習目標・内容の全てを網羅するものではないことから、調査結果が児童生徒の学力すべてを表すものではなく、学校の教育活動の一側面を示すものと考えています。また、特に今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、大きな制約の下で教育活動を行っており、本学習状況調査についても例年とは異なる時期に実施しています。そのため今年度の本学習状況調査は、昨年度以前とは大きく条件の異なる調査となりました。

しかし、本学習状況調査の結果を児童生徒の学習状況を客観的に把握するための資料の一つと捉え、今後の市の教育施策の充実や学校における児童生徒の個性や能力に応じた学習指導の改善のためにしっかりと役立てていきたいと考えています。

各学年・各教科それぞれについて、結果及び全体的な傾向を後述しています。学年・教科によって傾向は異なりますが、本市の児童生徒全体の平均正答率は、残念ながら全国の児童生徒全体の平均正答率を下回るものがほとんどです。ところがその差が数ポイントであるものも多くあり、それらについては全国の平均正答率とほぼ同程度と捉えることができます。しかしながら、一部の学年・教科においては、全国の平均正答率を大きく下回っており、課題が見られます。

市内各学校においては、自校の調査結果を分析し、成果と課題を明らかにしています。全体的な傾向だけではなく、問題レベルまでの分析を行い、自校の児童生徒がどの教科のどの領域に課題があるのかといった詳細な分析を行い、指導改善につなげている実践も見られます。そうした取組によって、学力向上の取組の成果が大きく表れている学校もあります。

子どもたちに「確かな学力」を育むためには、学校だけでなく家庭や地域のご協力が必要です。そのためにも、子どもたちの学力や学習状況の現状を理解していただくとともに、学校教育活動にも積極的なご支援をいただくため、本年度も本市の状況および課題について公表することとしましたので、ご理解いただきますようお願いいたします。

## 1. 調査の概略

### (1) 調査の目的

横須賀市立小・中学校学習状況調査を実施し、横須賀市の児童生徒の学習状況を把握・分析し、その調査結果を各学校の指導方法の工夫・改善および児童生徒の学習に役立て、横須賀市として必要な施策の策定に資することを目的としています。

### (2) 調査内容

小学校3年生：①国語（聞き取り 有） ②算数

※各教科小学校2年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校4年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③算数 ④理科

※各教科小学校3年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校5年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③算数 ④理科

※各教科小学校4年生までの履修内容を出題範囲としています。

小学校6年生：①社会 ②理科

※各教科小学校5年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校1年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③数学 ④理科

※各教科小学校6年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校2年生：①国語（聞き取り 有） ②社会 ③数学 ④理科

⑤外国語（リスニング 有）

※各教科中学校1年生までの履修内容を出題範囲としています。

中学校3年生：①社会 ②理科 ③外国語（リスニング 有）

※各教科中学校2年生までの履修内容を出題範囲としています。

### (3) 公表について

- ・ 序列化や過度な競争につながらないようにするため、各学校の結果については、公表いたしません。

## 2. 教科別結果の見方

各学年の教科別の結果については、「教科全体」および「基礎」と「活用」の結果について、同じ問題を受検した全国の児童生徒全体の平均正答率を100としたときの、横須賀市の平均正答率を示しています。同じ問題を受検した全国の児童生徒数は、学年や教科によって異なりますが、概ね13万人から20万人となっています。

## 3. 横須賀市立小学校の結果

### 【小学校3年生】

	国 語			算 数		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	98.9	97.6	103.5	98.9	99.7	94.1

### 各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校3年生）

#### 【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「物語・説明文の内容の読み取り」は比較的良い結果でした。

一方、「作文」が課題で、児童が自分の考えを自由に、少し長く書く経験を積み上げる指導が必要です。また、「漢字の書き取り」については、学校により正答率に差が見られ、正答率の低かった学校では、児童の実態に合った指導が必要です。

#### 【算数】

「基礎」については全国平均とほぼ同程度ですが、「活用」については全国平均を大きく下回っています。中でも特に、「加法の結合法則の理解」については、昨年度に引き続き課題が見られました。また、図形に関する問題では、多くが全国平均を下回っており、課題が見られました。

課題がみられた点を中心に、児童の学習の定着状況を踏まえた授業づくりを進めていくことが求められます。

### 【小学校4年生】

	国 語			社 会		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	93.6	91.2	101.5	95.4	96.3	93.9

	算 数			理 科		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	97.2	96.9	98.6	95.2	93.6	102.0

#### 各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校4年生）

##### 【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「話し合いの内容の聞き取り」や「物語の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。

一方、「作文」と「言語事項」（漢字の読み書き、主語と述語の理解等）に課題が見られました。言語事項のうち例年課題となっている「ローマ字のつづり」の理解は、少し改善が見られましたが、今後、一人一台のパソコンの導入が予定されている中で、ローマ字入力ができる力につながる指導が必要です。

##### 【社会】

「基礎」「活用」とともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、用語・記号等の理解に課題が見られ、全国平均を大きく下回っている設問がありました。また、「活用」については、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

##### 【算数】

全体で見ると全国平均を下回っていますが、個々の問題には全国平均を上回るものと、下回るものが見られます。各校において、児童の学習の定着状況や課題点を指導者が十分に理解した上で、課題となる点の解決を図る指導が必要となります。

「数直線上に示された分数を読み取る」、「余りを切り上げて処理する問題ができ、その理由を説明する」の各問題には、昨年度に引き続き課題が見られました。

##### 【理科】

「基礎」については、全国平均を下回る結果でしたが、「活用」においては、全国平均を上回る結果でした。「基礎」については「こん虫の育ち方」や「電気の通り道」などについての知識の理解に課題があります。「活用」については、「太陽と地面のようす」などの理解に良好な結果が見られました。

### 【小学校5年生】

	国 語			社 会		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	96.1	95.7	97.9	97.6	97.8	96.8

	算 数			理 科		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	92.1	91.8	93.5	90.2	89.9	90.3

### 各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校5年生）

#### 【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「話し合いの内容の聞き取り」「物語の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。

一方、「言語事項」（漢字の書き取り、連用修飾語の理解等）と「作文」に課題が見られました。「漢字の書き取り」は、学校により正答率に大きな差が見られたことから、正答率が低い学校においては、指導方法の見直しや家庭学習課題の工夫等が必要です。

#### 【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「活用」では、「県の様子」の県の地形や交通の特徴について資料を読み取る問題で、全国平均を大きく下回りました。また、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

#### 【算数】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。引き続き、児童の学習の定着状況や課題点等を十分に分析・把握した上での、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着と、それらを活用する能力の育成を図る授業改善が求められます。

#### 【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」では、「月と星」の理解に課題が見られました。「活用」については、「天気のようにすと気温」、「水のすがたとゆくえ」などの説明をする記述問題に課題が見られました。

**【小学校 6 年生】**

	社 会			理 科		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	92.4	92.4	92.5	94.1	95.6	88.8

**各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（小学校 6 年生）****【社会】**

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、用語・記号等の理解に課題が見られました。記述問題に無解答が多い傾向や、後半の問題になるほど無解答率が高い傾向は、今年度も依然として課題となっています。

**【理科】**

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」では「植物の花のつくりと実」などの理解に課題が見られました。「活用」については、「物のとけ方」の問題のように、事物・現象について説明することに課題が見られました。

#### 4. 横須賀市立中学校の結果

##### 【中学校 1 年生】

	国 語			社 会		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	97.5	96.0	104.1	92.0	91.7	92.9

	数 学			理 科		
	教科全体	基 礎	活 用	教科全体	基 礎	活 用
横須賀市	95.9	95.4	99.3	90.6	90.9	89.3

##### 各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校 1 年生）

###### 【国語】

「基礎」について内容別に見ると、「話し合いの内容の聞き取り」「説明文の内容の読み取り」は比較的良好な結果でした。本市の小学校で毎年課題となっている「作文」は、無解答率は依然高いものの全国平均を上回り、中学生になって書くコツをつかめてきた生徒が増えていることがうかがえます。

一方、「言語事項」（漢字の読み書き、熟語の成り立ちの理解等）に課題が見られ、小学校で学習した知識を改めて丁寧に指導することが必要です。

###### 【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、歴史的分野や公民的分野における用語・記号等の理解に課題が見られ、平均を大きく下回っている設問がありました。また「活用」については、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

###### 【数学】

「活用」については全国平均とほぼ同程度ですが、「基礎」について課題が見られました。中でも、「底面積と高さから角柱の体積を求める」や、「道のりと時間から速さを求める計算について理解し、単位をそろえて計算できていないことを指摘する」、「比の考えを利用して、全体から一部の量を求める」など、中学校 1 年生での学習につながる基礎的・基本的な事項に関する問題の一部で課題が見られます。生徒の既習事項の定着状況を分析した上での授業展開を目指していくことが求められます。

###### 【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」では、「月と太陽」の月の見え方の問題などに課題がみられました。「活用」では「水よう液の性質」の実験について説明することや結果から考察する問題については、課題が見られる結果でした。

## 【中学校 2 年生】

	国 語			社 会			数 学		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	98.8	98.9	98.4	95.0	94.6	97.1	98.9	99.7	93.9

	理 科			外 国 語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	90.6	91.1	89.5	105.1	103.6	107.8

### 各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校 2 年生）

#### 【国語】

全国平均にはわずかに届かなかったものの、全市的に大きく課題のある指導事項はなく、これまでの指導の積み重ねの成果といえます。あえて取り上げるなら、「説明文の構成や展開を捉える」問題の正答率が低く、今後、説明文の指導においては、内容の読み取りだけでなく、その説明の仕方にも注目させるような指導が必要です。

各学校では正答率の低かった問題を分析し、指導の改善に役立てることが必要です。

#### 【社会】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回っています。「基礎」においては、歴史的分野における用語等の理解に課題が見られました。また「活用」については、記述問題において無解答が多い傾向が見られます。

#### 【数学】

「基礎」については全国平均とほぼ同程度ですが、「活用」に課題が見られました。特に「数量関係を式に表し、その関係が反比例であることを指摘する」、「示された模様が図形を回転移動させてつくったものであることを読み取り、移動の方法を説明する」などの問題に、課題が見られました。生徒の学習の定着状況や課題点等を十分に分析・把握した上で、基礎的・基本的な知識および技能の確実な定着とともに、それらを活用する能力の育成を図る指導改善が求められます。

#### 【理科】

「基礎」「活用」ともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」においては「水溶液の性質」、「力と圧力」での理解に課題が見られました。「活用」においては、「地層」についての説明することや科学的に思考することに課題が見られました。

#### 【外国語】

「基礎」「活用」ともに全国平均を上回り確実な力がついてきていることがうかがえます。

「書くこと」については、日常生活でも用いるような使用頻度の高い単語を書く問題で無解答率が高くなっています。また、一部の文構造について正しい語順を理解することについて課題が見られます。

### 【中学校3年生】

	社 会			理 科			外 国 語		
	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用	教科全体	基礎	活用
横須賀市	102.9	103.1	102.2	91.3	92.8	85.1	99.2	98.4	101.2

#### 各学年・教科の全体的な傾向および課題の見られる事項（中学校3年生）

##### 【社会】

「基礎」「活用」とともに全国平均を上回っており、概ね良好な結果でした。「活用」の記述問題で、無解答率が高くなるなどの課題が見られました。

##### 【理科】

「基礎」「活用」とともに全国平均を下回る結果でした。「基礎」においては「生物と細胞」の多細胞生物の体のつくりに関する問題や、「動物の分類と生物の進化」の相同器官の問題に課題が見られました。「活用」については、「大気中の水蒸気の変化」などの記述問題に課題が見られました。

##### 【外国語】

「基礎」については全国平均を下回りました。

「聞くこと」の助動詞を使用した表現の状況把握に一部課題が見られます。また「書くこと」に関して、一部の文構造について正しい語順を理解することについて課題が見られます。

## 5. 今後の取組について

各学校においては、本学習状況調査の結果をもとに、自校の成果と課題を分析し、課題の改善に向けた取組を行っています。また、教育委員会では、各学校の取組に対する指導助言を行い、子どもたちの学力向上に向けた支援を行っています。

さらに、これまでの本学習状況調査や全国学力・学習状況調査の結果の分析から、子どもたちの学力向上には、家庭学習の取組等、学習習慣の定着とともに、基本的な生活習慣や家族とのコミュニケーションも大きく影響していることがわかってきています。そこで、学校と家庭が連携して取組を進めていくことが重要であると考えています。

教育委員会では、子どもたちの確かな学力を育成する上で、平成30年度から4カ年計画で策定した「横須賀市学力向上推進プラン」をもとに、学力向上に向けた学校、家庭、教育委員会の主たる取組を次のように定め、学校と連携・協力しながら取組を進めています。

### 【学校での取組】

◎「学校が取り組むべき3つの提言」

- ①学力向上に向けた課題解決のために、教育課程を編成し、組織的に取り組みます。
- ②指導力の向上を図るために、校内研究を充実させます。
- ③学習内容を定着させるために、目標と指導と評価が一体となった授業づくりを行います。

### 【家庭での取組】

- ・学習習慣をはぐくむ学習環境づくり
- ・家庭学習啓発リーフレット等を活用した学習習慣の確立
- ・学校の取組と連携した取組（生活習慣の改善等）

### 【教育委員会の取組】

- ・各学校が計画・作成する「学校重点プラン」への指導助言
- ・本学習状況調査の結果等を踏まえた各学校への指導助言
- ・子どもの学力向上を支援する取組（学習支援員の派遣等）
- ・学校と家庭との連携の推進（家庭学習啓発リーフレットの作成・配布等）